

学生の確保の見通し等を記載した書類【目次】

○学生の確保の見通しおよび申請者としての取組状況	2
1. 学生の確保の見通し	2
ア 定員充足の見込み	2
① 入学定員の設定の考え方	2
② 過去5年間の入学志願状況等	2
③ アンケート調査結果	2
イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	3
① 過去5年間の入学志願状況に係るデータ	3
② アンケート調査結果に係るデータ	5
ウ 学生納付金の設定の考え方	9
2. 学生確保に向けた具体的な取組状況	11
(1) 生命理工学研究科 生命理工学専攻(修士課程)、生命理工学専攻(博士後期課程)	11
(2) 定員超過率が0.7倍未満の専攻(人文学研究科 日本文学専攻(修士課程)、英米文学専攻(修士課程)、社会学専攻(修士課程)、臨床心理学専攻(修士課程)、日本文学専攻(博士課程))	13
○人材需要の動向等社会の要請	15
1. 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)	15
2. 人材需要の客観的な根拠	15
① 理工学研究科物質理学専攻(修士課程)、物理工学専攻(修士課程)、物質理工学専攻(博士課程)における進路実績	15
② 社会的な背景	16
③ アンケート調査結果	17

○学生の確保の見通しおよび申請者としての取組状況

1. 学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

① 入学定員の設定の考え方

生命理工学研究科生命理工学専攻（修士課程）、および生命理工学専攻（博士後期課程）の入学定員は、これまでの理工学研究科物質理学専攻（修士課程）、物理工学専攻（修士課程）、物質理工学専攻（博士課程）への入学志願状況、アンケート調査結果等を踏まえたうえで検討し、生命理工学専攻（修士課程）は5人、生命理工学専攻（博士後期課程）は2人と定めることとした。

② 過去5年間の入学志願状況等

生命理工学研究科生命理工学専攻（修士課程）、生命理工学専攻（博士後期課程）の前身である理工学研究科は物質理学専攻（修士課程）（入学定員7人）、物理工学専攻（修士課程）（入学定員7人）、物質理工学専攻（博士課程）（入学定員2人）で構成されていた。

理工学研究科は、安定して入学志願者を確保していたわけではなかったが、基礎となる科学技術学部を平成27（2015）年4月に学生募集停止したことにより、より一層入学者の確保が困難となった。

しかし、平成31（2019）年4月の健康医療科学部設置にあわせ、当該学部の教員が平成30（2018）年から着任し研究科の教員となったことにより、修士課程、および博士課程において当該分野への入学希望者が一時的に増加した。

過去5年の入学定員充足率をみると、物質理学専攻は約14.2%、物理工学専攻は約20%、物質理工学専攻は60%の状況である。

生命理工学研究科とすることにより、健康医療科学部からの当該分野への進学希望者、薬学部の進路変更者等も対象となることから、一定数の入学者を見込めるため、修士課程においては、14人の入学定員（物質理学専攻7人、物理工学専攻7人）を5人とし、博士後期課程においては、2人の入学定員を維持することとした。

③ アンケート調査結果

生命理工学研究科生命理工学専攻（修士課程）、および生命理工学専攻（博士後期課程）の設置にあたり、定量的データから定員充足の見通しを検証することを目的として、本学の在学生（薬学部1年生から6年生、健康医療科学部1年生（健康医療科学部については、平成31（2019）年4月に開設したため、1年生のみが在籍）、物質理学専攻（修士課程）2年生、物理工学専攻（修士課程）2年生）を対象にアンケート調査を実施した。

調査結果をみると、生命理工学研究科生命理工学専攻（修士課程）においては、開設初年度となる令和2（2020）年度の入学対象となる学生（薬学部6年生、および4年生。入学資格審査は別途実施）は4人、生命理工学研究科生命理工学専攻（博士後期課程）は3人（理工学研究科修士課程2年生）であった。

また、生命理工学専攻（修士課程）では、薬学部3年生で1人、薬学部2年生で1人、薬学部1年生で2人の入学意向が得られ、開設2年目以降についても入学意向を示す希望者がいることがわかった。

生命理工学研究科生命理工学専攻（博士後期課程）においても、薬学部6年生2人、4年生2人、3年生1人、2年生1人、1年生3人の入学意向が得られており、修士課程と同様に、開設2年目以降も

進学希望者がいることがわかった。

アンケート調査結果を踏まえ、現理工学研究科物質理学専攻（修士課程）における入学定員 7 人、物理工学専攻（修士課程）7 人の合計 14 人と同規模の入学定員の学生確保は困難であるため、新たに設置する生命理工学専攻（修士課程）の入学定員は 5 人と設定した。

生命理工学専攻（博士後期課程）においては、アンケート調査結果からも理工学研究科物質理工学専攻（博士課程）と同規模の入学定員を維持することが可能であると判断し、入学定員を 2 人とした。

今般の調査は、対象者 468 人のうち、149 人の回答に留まり、アンケート回収率が 31.8%であった状況でも、各学年から毎年 1～2 人程度の入学意向があったため、社会人入学者、他大学、および専修学校からの入学希望者を加えることにより、中・長期的にも生命理工学研究科生命理工学専攻（修士課程）5 人、生命理工学専攻（博士後期課程）2 人の入学者は確保できると見込んでいる。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

① 過去 5 年間の入学志願状況に係るデータ

【理工学研究科 物質理学専攻（修士課程）の入学試験結果】（単位：人）

物質理学専攻	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	小計	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	小計
	2010	2011	2012	2013	2014		2015	2016	2017	2018	2019	
入学定員	15	15	7	7	7	51	7	7	7	7	7	35
志願者数 (延べ)	4	4	3	3	2	16	0	3	2	0	1	6
志願者数 (実数)	3	4	3	3	2	15	0	3	1	0	1	5
合格者数	3	4	3	3	2	15	0	3	1	0	1	5
入学者数	3	4	3	3	2	15	0	3	1	0	1	5
入学定員充足率	20%	26.6%	42.9%	42.9%	28.6%	32.2%	0%	42.9%	14.3%	0%	14.3%	14.3%

【理工学研究科 物理工学専攻（修士課程）の入学試験結果】（単位：人）

物理工学専攻	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	小計	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	小計
	2010	2011	2012	2013	2014		2015	2016	2017	2018	2019	
入学定員	20	20	7	7	7	61	7	7	7	7	7	35
志願者数 (延べ)	9	5	5	3	1	23	0	0	2	4	1	7
志願者数 (実数)	8	4	5	3	1	21	0	0	2	4	1	7
合格者数	7	4	5	3	1	20	0	0	2	4	1	7
入学者数	6	4	5	3	1	19	0	0	2	4	1	7
入学定員充足率	30%	20%	71.4%	42.9%	14.3%	35.7%	0%	0%	28.6%	57%	14.3%	20%

【理工学研究科 物質理学専攻（修士課程）、物理工学専攻（修士課程）合計の入学試験結果（合計）】

（単位：人）

物質理学専攻 物理工学専攻 （合計）	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	小計	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	小計
	2010	2011	2012	2013	2014		2015	2016	2017	2018	2019	
入学定員	35	35	14	14	14	112	14	14	14	14	14	70
志願者数 （延べ）	13	9	8	6	3	120	0	3	4	4	2	13
志願者数 （実数）	11	8	8	6	3	36	0	3	3	4	2	12
合格者数	10	8	8	6	3	35	0	3	3	4	2	12
入学者数	9	8	8	6	3	34	0	3	3	4	2	12
入学定員充足率	25.7%	22.9%	57.1%	42.9%	21.4%	34%	0%	21.4%	21.4%	28.6%	14.3%	17.1%

理工学研究科物質理学専攻（修士課程）の過去 5 年間（平成 27（2015）年度～平成 31（2019）年度）の平均入学定員充足率は 14.3%であり、物理工学専攻（修士課程）においては、20%であった。

一方、平成 22（2010）年度～平成 26（2014）年度における 5 年間の平均入学定員充足率をみると、入学定員こそ満たしていないものの、物質理学専攻（修士課程）で 32.2%、物理工学専攻（修士課程）で 35.7%であり、平成 27（2015）年度～平成 31（2019）年度の結果と比較すると上回っている状況である。

これは、平成 27（2015）年度に理工学研究科の基礎となる科学技術学部の学生募集を停止したことによる影響が大きかったことを示している。

いずれにしても深刻な定員割れを起こしている状況であったが、物質理学専攻（修士課程）、および物理工学専攻（修士課程）の入学者実数を合計すると、平成 22（2010）年度～平成 26（2014）年度において平均 6.8 人の入学者を獲得している。平成 27（2015）年度～平成 31（2019）年度における平均入学者は 2.4 人となるが、先述のとおり、基礎となる科学技術学部の学生募集停止の影響により減少した結果であり、生命理工学研究科生命理工学専攻（修士課程）は、薬学部、および健康医療科学部を基礎とするため、平成 22（2010）年度～平成 26（2014）年度における結果において示されているように平均 6.8 人程度の入学者を見込むことができる。

したがって、今般の生命理工学研究科生命理工学専攻（修士課程）において設定する入学定員 5 人を確保することが可能である。

【理工学研究科 物質理工学専攻（博士課程）の入学試験結果】（単位：人）

物質理工学専攻	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	小計	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	小計
	2010	2011	2012	2013	2014		2015	2016	2017	2018	2019	
入学定員	5	5	2	2	2	16	2	2	2	2	2	10
志願者数 (延べ)	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	6
志願者数 (実数)	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	6
合格者数	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	6
入学者数	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	6
入学定員充足率	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	150%	150%	0%	60%

理工学研究科物質理工学専攻（博士課程）の過去5年間（平成27（2015）年度～平成31（2019）年度）の平均入学定員充足率は60%であった。

平成22（2010）年度～平成26（2014）年度においては入学者が皆無であった。

平成31（2019）年度における入学者数は0人となっているが、平成29（2017）年度、平成30（2018）年度における入学者はそれぞれ3人であった。

これは、学位を取得し、研究者としてキャリアを向上させるための入学者がいたこと等によるものである。

本学では、将来の本学の教員を本学の大学院において養成することを視野に入れて教育研究活動を行っており、今後も同様に学位取得を目指した入学者の獲得を目指しながら、一般の社会人におけるキャリアアップのための学位取得希望者等を対象として広報活動を実施することで入学定員2人の確保が可能であると考えている。

② アンケート調査結果に係るデータ

生命理工学研究科生命理工学専攻（修士課程）、生命理工学専攻（博士後期課程）を設置するにあたり、定員充足の見通しを検証するためにアンケート調査を実施した。

アンケート調査の実施にあたっては、過去の大学院入試結果において、在学生の入学割合が高かったことから、在学生を対象として調査を実施した。

生命理工学研究科生命理工学専攻（修士課程）への入学意向については、本専攻の基礎となる学部である薬学部、健康医療科学部の学生、また、生命理工学専攻（博士後期課程）への入学意向については、理工学研究科物質理工学専攻（修士課程）、物理工学専攻（修士課程）の学生を対象とした。

なお、中・長期的な入学動向等を調査するために、薬学部1年生から6年生までの全学年、および健康医療科学部の1年生（当該学部は平成31（2019）年4月に開学したため、1年生のみ在籍）を対象とした。

【アンケート調査実施概要】

ア) 調査期間：令和元（2019）年11月1日～11月29日

イ) 調査方法：学内学修支援システム（manab@isu）においてパンフレットに必要情報を明示し、WEB上で回答。

ウ) 調査対象：医療創生大学薬学部 1 年生から 6 年生、医療創生大学健康医療科学部 1 年生、医療創生大学大学院理工学研究科修士課程 1 年生から 2 年生

エ) 有効回答数：149 人（回収率 31.8%）

※アンケートを実施するにあたり、添付したパンフレットは【資料 1】、アンケート調査の質問項目および回答選択肢については【資料 2】を参照。

【アンケート調査結果（データ）】

（１） 回答者の性別

No	性別	人数
1	男性	53
2	女性	96
総計		149

（２） 回答者の学部・学年

No	学部・研究科	学年	人数
1	薬学部	1 年生	27
2	薬学部	2 年生	31
3	薬学部	3 年生	15
4	薬学部	4 年生	24
5	薬学部	5 年生	10
6	薬学部	6 年生	20
7	健康医療科学部	1 年生	17
8	理工学研究科修士課程	1 年生	1
9	理工学研究科修士課程	2 年生	4
総計			149

(3) 大学卒業（大学院修了）後の進路希望

大学卒業（大学院修了）後の 希望進路	学部等	学年	集計
大学院へ進学	薬学部	1 年生	2
		2 年生	2
		3 年生	1
		4 年生	2
		6 年生	2
	理工学研究科修士課程	2 年生	3
計			12
就職	健康医療科学部	1 年生	17
	薬学部	1 年生	25
		2 年生	29
		3 年生	14
		4 年生	22
		5 年生	10
		6 年生	18
計			135
その他	理工学研究科修士課程	1 年生	1
		2 年生	1
計			2
合計			149

(4) 生命理工学研究科生命理工学専攻（修士課程）への受験意向・入学意向

受験意向	入学意向	学部等	学年	人数
受験したいと思う	入学したいと思う	薬学部	1 年生	2
		薬学部	2 年生	1
		薬学部	3 年生	1
		薬学部	4 年生	2
		薬学部	6 年生	2
		理工学研究科修士課程	2 年生	3
計				11
受験したいと思わない	入学したいと思わ ない	薬学部	1 年生	9
		薬学部	2 年生	8
		薬学部	3 年生	5
		薬学部	4 年生	6
		薬学部	6 年生	5
		健康医療科学部	1 年生	5
計				38

未回答	未回答	—	100
合計			149

(5) 生命理工学研究科生命理工学専攻（博士後期課程）への受験意向・入学意向

受験意向	入学意向	学部等	学年	集計
受験したいと思う	入学したいと思う	薬学部	1 年生	3
		薬学部	2 年生	1
		薬学部	3 年生	1
		薬学部	4 年生	2
		薬学部	6 年生	2
		理工学研究科修士課程	2 年生	3
		小計①		12
	入学したいと思わない	薬学部	2 年生	1
		小計②		1
計①（小計①＋小計②）				13
受験したいと思わない	入学したいと思わない	薬学部	1 年生	8
		薬学部	2 年生	6
		薬学部	3 年生	5
		薬学部	4 年生	6
		薬学部	6 年生	5
		健康医療科学部	1 年生	5
計②				35
未回答	未回答	—		101
合計（計①＋計②＋未回答）				149

ウ 学生納付金の設定の考え方

生命理工学研究科生命理工学専攻（修士課程）、生命理工学専攻（博士後期課程）の学生納付金の設定にあたり、入学金については、入学事務手続きに要する各種経費を検証し、授業料については、教育サービスに関わる経費、および施設維持に必要な経費等を検証のうえ、同系統の近隣大学院の状況も参考にしながら、従来、理工学研究科の修士課程、博士課程で定めていた金額とすることとした。

【生命理工学研究科 生命理工学専攻（修士課程）】（単位：千円）

学年	1 年次	2 年次
入 学 金	280	—
授 業 料	350	350
施設拡充費	130	130
合 計	760	480

【生命理工学研究科 生命理工学専攻（博士後期課程）】（単位：千円）

学年	1 年次	2 年次	3 年次
入 学 金	280	—	—
授 業 料	350	350	350
施設拡充費	130	130	130
合 計	760	480	480

学生納付金の設定にあたり、同系統の研究科を設置する東北地方、および関東地方のうち、福島県から比較的近い都道府県の大学院の授業料と比較し、検討した。

修士・博士前期課程、博士後期課程における入学金については、大学院ごとに異なり、下記 4 校の平均額はいずれの課程においても 237.5 千円であった。また、授業料の平均額は修士・博士前期課程、博士後期課程によって異なり、修士・博士前期課程では 868.75 千円、博士後期課程では 748.75 千円であった。入学金および授業料合計の平均は修士・博士前期課程では 1,106.25 千円、博士後期課程では 986.25 千円であった。

本学の生命理工学研究科の入学金は平均額と比較すると上回っているが、授業料は平均額より大幅に下回っている。定員規模、および従来の研究科、専攻で定めていた金額からの継続性を考慮し、上記の入学金、授業料とすることとした。

【修士・博士前期課程】（単位：千円）

所在地	大学	研究科	専攻	入学金	授業料※	合計
青森県	八戸工業大学	工学研究科	機械・生物化学工学	250	992	1,242
宮城県	石巻専修大学	理工学研究科	生命科学	200	843	1,043
埼玉県	埼玉工業大学	工学研究科	生命環境化学	250	800	1,050
千葉県	千葉工業大学	工学研究科	生命環境科学	250	840	1,090
平均	—	—	—	237.5	868.75	1,106.25

表は、日本私立大学団体連合会が作成する「学生納付金等調査（平成 31 年度入学生）」より作成。

※「授業料」には、「施設設備費」、「実験・実習・体育費」、「教育充実費特別納付金」等を含む。

【博士後期課程（博士課程後期）】（単位：千円）

所在地	大学	研究科	専攻	入学金	授業料※	合計
青森県	八戸工業大学	工学研究科	機械・生物化学工学	250	992	1,242
宮城県	石巻専修大学	理工学研究科	生命科学	200	663	863
埼玉県	埼玉工業大学	工学研究科	生命環境化学専攻	250	500	750
千葉県	千葉工業大学	工学研究科	工学	250	840	1,090
平均	—	—	—	237.5	748.75	986.25

表は、日本私立大学団体連合会が作成する「学生納付金等調査（平成 31 年度入学生）」より作成。

※「授業料」には、「施設設備費」、「実験・実習・体育費」、「教育充実費特別納付金」等を含む。

2. 学生確保に向けた具体的な取組状況

(1) 生命理工学研究科 生命理工学専攻(修士課程)、生命理工学専攻(博士後期課程)

本学大学院への入学実績（平成 22（2010）年度から平成 31（2019）年度まで 10 年間）をみると、修士課程においては、約 75.9%が学内からの進学者、約 24.1%が社会人入学者である。

博士課程においては、平成 29（2017）年度、平成 30（2018）年度にのみ入学者がいる状況であったが、2 年間の学内からの入学者を平均すると、約 33.5%が学内からの入学者、約 66.5%が社会人入学者であった。

理工学研究科の基礎となる科学技術学部の学生募集停止前（平成 22（2010）年度から平成 26（2014）年度）における修士課程の入学実績（物質理学専攻、および物理工学専攻の合計）をみると、学内からの入学者が 100%である。

そのため、本学学内の学部卒業者、および社会人を主な募集対象として、以下の学生確保に向けた取組を行う。

【理工学研究科 物質理学専攻（修士課程）、物理工学専攻（修士課程）合計の入学試験結果（合計）】

（単位：人）

物質理学専攻 物理工学専攻 (合計)	H22 年度 2010	H23 年度 2011	H24 年度 2012	H25 年度 2013	H26 年度 2014	H27 年度 2015	H28 年度 2016	H29 年度 2017	H30 年度 2018	H31 年度 2019
入学定員	35	35	14	14	14	14	14	14	14	14
入学者数	9	8	8	6	3	0	3	3	4	2
入学定員充足率	25.7%	22.9%	57.1%	42.9%	21.4%	0%	21.4%	21.4%	28.6%	14.3%
入学者（学内から）	9	8	8	6	3	0	3	1	0	1
入学者（学外から）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人	0	0	0	0	0	0	0	2	4	1
学内からの入学率	100%	100%	100%	100%	100%	0%	100%	33%	0%	50%
平均	75.9%									
学外からの入学率	0%	0%	0%	0%	0%	—	0%	0%	0%	0%
平均	0%									
社会人入学率	0%	0%	0%	0%	0%	—	0%	67%	100%	50%
平均	24.1%									

【理工学研究科 物質理工学専攻（博士課程）の入学試験結果】（単位：人）

物質理工学専攻	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度
	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
入学定員	5	5	2	2	2	2	2	2	2	2
入学者数	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0
入学定員充足率	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	150%	150%	0%
入学者（学内から）	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
入学者（学外から）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0
学内からの入学率	—	—	—	—	—	—	—	67%	0%	—
平均	33.5%									
学外からの入学率	—	—	—	—	—	—	—	0%	0%	—
平均	0%									
社会人入学率	—	—	—	—	—	—	—	33%	100%	—
平均	66.5%									

1) 大学院説明会

大学院の広報活動は、在学生を主な対象としていたため、学部教育段階において、学部の学年主任、チューター等が大学院への進学を促しており、大学院説明会等の広報の機会を設けていなかった。

今後は、在学生、および他大学の学生を対象に、本大学院での学修内容をより理解することができるよう大学院説明会を実施し、情報を発信する。

2) 地域公開講座、臨床実習に係る関係機関への案内等による広報

生命理工学研究科生命理工学専攻（修士課程）は薬学部、および健康医療科学部を基礎としている。薬学部、健康医療科学部においては、正課として学外実習が設けられており、病院、薬局、老健施設等において実習を行っている。

当該施設と各学部において実習先と緊密に連携しており、実習先の関係者から修士課程、博士後期課程における学位取得に関する質問等が多い。

当該施設との連携の際に実施される「臨床実習指導者会議」等の際に、広報活動を行う。

また、向学心の高い社会人が受講する地域公開講座において、生命理工学研究科の情報を発信する。

3) 地域連携協議会

本学では、産学官連携による地域における人材育成の強化と、高校教員への情報提供を目的として、年に複数回、「地域連携協議会」を実施している。

本協議会は、本学、地域の企業、地方自治体による「産業部会」と、本学、地域の高校による「教育部会」の二部会で構成されている。

本協議会をとおして、地域の企業、地方自治体等の関係機関に対して、生命理工学研究科生命理工学専攻（修士課程）、および生命理工学専攻（博士後期課程）の養成する人材像、教育研究内容の情報を発信し、社会人の入学を促す。

(2) 定員超過率が0.7倍未満の専攻(人文学研究科 日本文学専攻(修士課程)、英米文学専攻(修士課程)、社会学専攻(修士課程)、臨床心理学専攻(修士課程)、日本文学専攻(博士課程))

本学大学院のうち、定員超過率が0.7倍未満の専攻は、人文学研究科の日本文学専攻(修士課程)、英米文学専攻(修士課程)、社会学専攻(修士課程)、臨床心理学専攻(修士課程)、日本文学専攻(博士課程)である。

平成31(2019)年4月の教養学部学生募集停止に伴い、長期的な当該分野の教員の配置が困難になることが予測されること、および学生確保の観点から、人文学研究科 日本文学専攻(修士課程)、英米文学専攻(修士課程)、社会学専攻(修士課程)、日本文学専攻(博士課程)については、令和2(2020)年4月より学生募集を停止することとした。

人文学研究科臨床心理学専攻(修士課程)の過去5年間(平成27(2015)年度から平成31(2019)年度)において、入学定員の平均充足率は36%である。

平成22(2010)年度から平成26(2014)年度まで平均充足率は50%となっており、直近の過去5年間よりも上回っている状況である。

これは、人文学研究科の基礎となっていた人文学部(心理学科)が平成27(2015)年度に学生募集を停止し、教養学部(当該学部には心理学を専攻できる科目群を設置)へと改組したことにより、大学院への入学希望者が減少していたと分析している。

令和2(2020)年4月より教養学部を改組し、心理学部を開設するため、当該学部生、および教養学部の学生のうち心理学を主専攻としている学生を対象に進学を促す情報を発信し、学生確保に努める。

【人文学研究科臨床心理学専攻の入学試験結果】(単位:人)

人文学研究科 臨床心理学専攻	H22 年度	H 23 年度	H 24 年度	H 25 年度	H 26 年度	H 27 年度	H 28 年度	H 29 年度	H 30 年度	H 31 年度
	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
入学定員	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
志願者数（延べ）	18	18	13	11	17	16	10	3	7	2
志願者数（実数）	13	12	10	6	12	9	9	3	5	2
合格者数	7	7	6	1	7	3	7	3	4	2
入学者数	6	7	6	1	5	3	7	3	3	2
入学定員充足率	60%	70%	60%	10%	50%	30%	70%	30%	30%	20%
平均（5 年）	50%					36%				
平均（10 年）	43%									

1) 大学院説明会の実施

本学の教養学部学生のうち、心理学を主専攻として授業科目を履修し、臨床心理士、若しくは公認心理師を目指す学生(令和2年4月以降は心理学部学生)、および他大学において心理学を学んでいる学部生を対象に、臨床心理学専攻が臨床心理士、公認心理師の資格取得に向けた教育課程を設置していること等の情報を発信するために大学院説明会を実施する。

2) 進学指導

本学の教養学部の心理学を主専攻としている学生(令和2年4月以降は心理学部学生)に対し、個別

に進学指導を行っていく。

教養学部においては、臨床心理士、公認心理師等の資格取得を目指す学生も多いことから、資格取得のために大学院への進学が近道になること、地域における公認心理師等の資格保持者へのニーズ等を説明する等の指導を行う。

また、令和 2（2020）年 4 月以降は、心理学部が設置され、公認心理師の資格取得希望者が多く入学してくることを想定しているため、より進学指導を充実させる。

○人材需要の動向等社会の要請

1. 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)

生命理工学専攻（修士課程）においては、被災地域に立地し、地域から求められる人材の育成を具現化するために、分子レベルでの生命科学から創薬、さらに化学療法と人間工学を基盤とした、健康の維持と増進に寄与し、医療現場の中核となりうる研究能力・実践力を兼ね備えた研究者・技術者・医療人を養成する。

生命理工学専攻（博士後期課程）では、科学的な論理的思考力を兼ね備え、次世代の高度医療専門職リーダーを養成する。

2. 人材需要の客観的な根拠

① 理工学研究科物質理学専攻（修士課程）、物理工学専攻（修士課程）、物質理工学専攻（博士課程）における進路実績

本大学院理工学研究科物質理学専攻（修士課程）、物理工学専攻（修士課程）、物質理工学専攻（博士課程）の各専攻の過去5年間の進路実績をみると、物質理学専攻（修士課程）の就職率の平均は71.4%、物理工学専攻（修士課程）は100%である。物質理工学専攻（博士課程）においては、過去5年間の修了者がいない状況である。

就職実績（修士課程）をみると、小売業、製造業、化学工業、技術サービス業等の化学技術者、金属技術者、製造技術者（機械、若しくは化学）等の専門的・技術的職業従事者として採用されているほか、金融業や卸売業などの事務従事者で採用されている。

【理工学研究科 物質理学専攻（修士課程）の進路結果】（単位：人）

物質理学専攻	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
	2014	2015	2016	2017	2018
卒業者数	3	2	0	2	0
就職者	2	1	0	2	0
進学者	1	0	0	0	0
就職率	67%	50%	—	100%	—

【理工学研究科 物理工学専攻（修士課程）の進路結果】（単位：人）

物理工学専攻	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
	2014	2015	2016	2017	2018
卒業者数	3	1	0	0	0
就職者	3	1	0	0	0
進学者	0	0	0	0	0
就職率	100%	100%	—	—	—

【理工学研究科 物質理工学専攻（博士課程）の進路結果】（単位：人）

物質理工学専攻	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
	2014	2015	2016	2017	2018
卒業者数	0	0	0	0	0
就職者	0	0	0	0	0
進学者	0	0	0	0	0
就職率	—	—	—	—	—

【理工学研究科 物質理学専攻（修士課程）の年度別就職実績等（修士課程）】

No	卒業年度	修了専攻	就職企業 都道府県 (本社)	産業	職業
1	平成 26 (2014) 年度	物質理学専攻	東京都	小売業	商品販売従事者
2	平成 26 (2014) 年度	物質理学専攻	岐阜県	製造業	化学技術者（開発を除く）
3	平成 27 (2015) 年度	物質理学専攻	茨城県	金融業	事務従事者
4	平成 29 (2017) 年度	物質理学専攻	福島県	卸売業	事務従事者
5	平成 29 (2017) 年度	物質理学専攻	福島県	化学工業	製造技術者（開発を除く）

【理工学研究科 物理工学専攻（修士課程）の年度別就職実績等（修士課程）】

No	卒業年度	修了専攻	就職企業 都道府県 (本社)	産業	職業
1	平成 26 (2014) 年度	物理工学専攻	東京都	技術サービス業	その他の製造技術者 （開発を除く）
2	平成 26 (2014) 年度	物理工学専攻	神奈川県	技術サービス業	その他の製造技術者 （開発を除く）
3	平成 26 (2014) 年度	物理工学専攻	東京都	金属製品製造業	金属技術者（開発を除く）
4	平成 27 (2015) 年度	物理工学専攻	東京都	製造業	製造技術者（開発除く） 機械

② 社会的な背景

本大学院は、地域産業、特に製造業の中核を担う技術者・研究者の育成を目的として、物質理学専攻（修士課程）、物理工学専攻（修士課程）、物質理工学専攻（博士課程）において、人材を育成し輩出してきた。

一方で、21 世紀を迎え、製造業のオートメーション化やロボット化、IT 化が進み、産業構造自体が変化してきた。同時に地域社会の高齢化、さらに中山間地域の過疎化に伴う健康や医療問題が顕著化してきた。

特に、平成 23 (2011) 年 3 月の東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故以降は、こうした問題が顕著化し、特に被災地での健康医療を担う人材不足は、帰還と復興を妨げる要因の一つとしてたびたび新聞や TV などに取り上げられるなど社会問題化してきた。

そこで、被災地福島の最も被害が大きかった浜通り地区に立地する大学院として、生命科学から創薬、

さらに化学療法と人間工学を基盤とした健康の維持と増進に寄与し、医療現場の中核となりうる研究者・技術者・医療人を養成することを目的に、薬学部、健康医療科学部を基礎とし、地域社会から求められる人材の育成を明確化した大学院「生命理工学研究科」へ改組することとした。

福島県各地域の医療従事者の不足については、震災以前から指摘されてきた問題であったが、平成 23 (2011) 年 3 月の震災以後、特に浜通り地域を中心に壊滅的な状況が「福島県浜通り地方医療復興計画(第 2 次)」(H28 年 9 月)や「避難地域等医療復興計画」(H29 年 7 月)、「福島県地域医療再生計画」(H23 年 11 月)のなかで指摘され、医師の確保だけでなく、幅広く医療従事者の確保の必要性が明記されている。

早期帰還と復興を図るため、医療施設と医療従事者の確保が欠かせない方策として繰り返し示されていることから、一般企業の技術・研究者だけでなく地域の病院・医療・介護・福祉施設等の医療施設からの専門技術者の需要、さらに教育・研究機関や公的機関の研究者・技術者などの需要があるといえる。

③ アンケート調査結果

生命理工学研究科生命理工学専攻(修士課程)の入学定員を 5 人、および生命理工学専攻(博士後期課程)の入学定員を 2 人と設定するにあたり、社会的、地域的な人材需要の動向を定量的データにより検証する目的から、本学で実施している地域連携協議会に所属している関係機関(病院、診療所・クリニック、福祉・介護施設、一般企業等)に対し、アンケート調査を実施した。

【アンケート調査実施概要】

ア) 実施期間 : 令和元(2019)年 11 月 11 日から令和元(2019)年 11 月 20 日

イ) 調査方法 : 対象関係機関にアンケート用紙を郵送して配付した。

ウ) 調査対象 : 地域連携協議会に所属している関係機関 88 機関を任意に抽出し対象とした。

エ) 有効回答数 : 44 件(回収率 : 50%)

※アンケートを実施するにあたり添付したパンフレットは、【資料 1】、アンケートの対象とした機関については、【資料 3】、アンケート調査の質問項目および回答選択肢については、【資料 4】を参照。

アンケート調査の結果、生命理工学研究科生命理工学専攻(修士課程)の採用意向は 18 社(約 41%)、生命理工学研究科生命理工学専攻(博士後期課程)においては 12 社(約 27%)が採用する意向があることがわかった。

また、Q12(生命理工学専攻(修士課程))、Q15(生命理工学専攻(博士後期課程))において、採用者の想定数値を調査するために「1.「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。現時点でのご回答者ご自身のお考えに最も近いものをお教えてください。(あてはまるもの 1 つにチェック)」という質問を設け集計した結果、生命理工学専攻(修士課程)においては毎年 7 人(採用想定数を 1 名と回答した企業が 5 社、2 名と回答した企業 1 社)、生命理工学専攻(博士後期課程)においては毎年 5 人(採用想定数を 1 名と回答した企業が 3 社、2 名と回答した企業が 1 社)の採用が見込まれ、最低でも各専攻における定員を超えるニーズがあることがわかった。

この結果により、社会的、地域的な人材需要を踏まえたものであることがわかる。

【アンケート調査結果（データ）】

1. 調査結果

（1） 回答者の人事採用への関与度

No	関与度	回答数
1	採用の決裁権があり、選考にかかわっている	19
2	採用の決裁権はないが、選考にかかわっている	18
3	採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集、提供する立場にある	6
4	未回答	1
計		44

（2） 回答企業・団体の所在地

No	都道府県	回答数
1	福島県	33
2	茨城県	1
3	東京都	9
4	神奈川県	1
計		44

（3） 回答企業・団体の業種

No	業種	回答数
1	一般企業	35
2	病院	2
3	診療所・クリニック	0
4	福祉・介護施設	3
5	その他	4
計		44

（4） 回答企業・団体の従業員数（正規社員・職員）

No	従業員数（規模）	回答数
1	50 名未満	13
2	50 名～100 名未満	8
3	100 名～500 名未満	12
4	500 名～1,000 名未満	4
5	1,000 名～5,000 名未満	4
6	5,000 名以上	3
計		44

(5) 回答企業の過去3か年の平均的な正規社員・職員の採用数（修士課程もしくは博士前期課程）

No	過去3か年の採用数（修士課程もしくは博士前期課程修了者）	回答数
1	0名	31
2	1～5名	9
3	6名～10名	1
4	11名～20名	0
5	21名～30名	2
6	30名以上	0
7	未回答	1
計		44

(6) 回答企業の過去3か年の平均的な正規社員・職員の採用数（博士課程もしくは博士後期課程）

No	過去3か年の採用数（博士課程もしくは博士後期課程修了者）	回答数
1	0名	39
2	1～5名	3
3	6名～10名	1
4	11名～20名	1
5	21名～30名	0
6	30名以上	0
計		44

(7) 新規大学院修了者の採用予定数の動向（修士課程もしくは博士前期課程）

No	採用予定数の動向	回答数
1	増やす	0
2	昨年度並み	8
3	減らす	0
4	未定	17
5	採用予定なし	19
計		44

(8) 新規大学院修了者の採用予定数の動向（博士課程もしくは博士後期課程）

No	採用予定数の動向	回答数
1	増やす	0
2	昨年度並み	4
3	減らす	0
4	未定	20
5	採用予定なし	20
計		44

(9) 採用を希望する分野（系統）（修士課程もしくは博士前期課程）※複数回答

No	採用予定数	回答数
1	理学系統	7
2	工学系統	18
3	心理学系統	0
4	文学系統	0
5	語学系統	0
6	法学系統	1
7	経済・経営・商学系統	3
8	社会学系統	0
9	国際関係学系統	0
10	看護・保健学系統	3
11	医・歯学系統	1
12	薬学系統	4
13	農・水産学系統	1
14	教員養成・教育学系統	0
15	生活科学系統	0
16	芸術学系統	0
17	総合科学系統	0
18	その他	3
19	学問系統にはこだわらない	15
計		56

(10) 採用を希望する分野（系統）（博士課程もしくは博士後期課程）※複数回答

No	採用予定数	回答数
1	理学系統	6
2	工学系統	16
3	心理学系統	0
4	文学系統	0
5	語学系統	0
6	法学系統	1
7	経済・経営・商学系統	3
8	社会学系統	0
9	国際関係学系統	0
10	看護・保健学系統	2
11	医・歯学系統	0
12	薬学系統	2
13	農・水産学系統	1

14	教員養成・教育学系統	0
15	生活科学系統	0
16	芸術学系統	0
17	総合科学系統	0
18	その他	5
19	学問系統にはこだわらない	15
20	未回答	1
計		52

(1 1) 生命理工学研究科生命理工学専攻（修士課程）の採用意向

No	生命理工学専攻（修士課程）の採用意向	回答数
1	採用したいと思う	18
2	採用したいとは思わない	25
3	未回答	1
計		44

(1 2) 生命理工学研究科生命理工学専攻（修士課程）の採用想定数

No	生命理工学専攻（修士課程）の採用想定数	回答数
1	1 名	5
2	2 名	1
3	人数は未定	12
計		18

(1 3) 生命理工学研究科生命理工学専攻（博士後期課程）の採用意向

No	生命理工学専攻（博士後期課程）の採用意向	人数
1	採用したいと思う	12
2	採用したいとは思わない	31
3	未回答	1
計		44

(1 4) 生命理工学研究科生命理工学専攻（博士後期課程）の採用想定数

No	生命理工学専攻（博士後期課程）の採用想定数	人数
1	1 名	3
2	2 名	1
3	人数は未定	8
計		12

学生の確保の見通し等を記載した書類【資料】

目 次

- 【資料 1】 大学院案内「医療創生大学大学院理工学研究科が生まれ変わります。」
- 【資料 2】 大学院改組改編に関するアンケート
- 【資料 3】 アンケート対象機関一覧
- 【資料 4】 医療創生大学大学院「生命理工学研究科生命理工学専攻（修士課程）、生命理工学専攻（博士後期課程）（仮称）」（設置構想中）に関するアンケート



医療創生大学大学院 理工学研究科が生まれ変わります。

新名称

医療の現場で中核を担う医療人を養成

生命理工学研究科 (仮称)

生命理工学専攻〈修士課程〉(仮称) 入学定員 **5名**

生命理工学専攻〈博士後期課程〉(仮称) 入学定員 **2名**

設置 理由と背景

医療創生大学は、地域に必要な人材を高等教育機関で養成するという地元いわき市との共通の目的を有し、昭和62年4月に理工学部及び人文学部をもって開学し、平成4年4月に理工学研究科物質理学専攻、物理工学専攻、平成6年4月に理工学研究科物質理工学専攻を設置し、いわき市及び福島県を中心に中核の人材を輩出し、地域の発展を担ってきました。

産業構造の変化やグローバル化の進展の中で、大学に対する人材養成の要望は強くなり、平成23年3月11日に発生した東日本大震災とそれに伴う福島第一原子力発電所事故により、本学における人材養成の要望も大きく変化いたしました。

平成31年4月には、大学の名称を「いわき明星大学」から「医療創生大学」へと変更するとともに、大学の目的を「科学的根拠（サイエンス）に基づいた、術（アート）を備えた慈愛（ハート）のある医療人の創生」へと変更し、医療人材の養成により、地域に貢献する大学へと生まれ変わるようになりました。

本学では、大学院における目的を達成するために、それぞれの専攻において教育研究活動を実施してきましたが、進学母体となる科学技術学部（旧理工学部）の改組・募集停止、震災後の地域社会から求められている人材養成の要望の変化から、環境生物学や動物行動、電子・機械工学やエネルギー技術分野など、従来の教育目標と実体とがそぐわない状況となってきたため、薬学部、健康医療科学部を母体とし、地域社会から求められる人材の育成を明確化した大学院へ改組いたします。

養成する 人材

生命理工学専攻（修士課程）

生命理工学専攻（修士課程）では、「科学的根拠（サイエンス）に基づいた、術（アート）を備えた慈愛（ハート）のある医療人の創生」を目的として、**分子レベルでの生命科学から創薬、及び化学療法と人間工学を基盤とし、健康の維持と増進に寄与し、医療現場の中核となりうる深い知識と研究能力・実践力を兼ね備えた研究者・技術者・医療人を養成**します。

生命理工学専攻（博士後期課程）

生命理工学専攻（博士後期課程）では、「科学的根拠（サイエンス）に基づいた、術（アート）を備えた慈愛（ハート）のある医療人の創生」を目的として、**生命科学、薬学、健康医療科学分野における高度な知識と創造的な研究能力を資する教育・研究者、さらに医療の現場で中核となりうる慈愛と科学的な論理的思考力を兼ね備えた高度医療専門職リーダーを養成**します。

競合する大学院 研究科の名称

- ▶ 八戸工業大学 工学研究科 機械・生物化学工学専攻
- ▶ 石巻専修大学 理工学研究科 生命科学専攻
- ▶ 千葉工業大学 工学研究科 生命環境科学専攻



生命理工学研究科(仮称) 学びの特徴(予定)

生命理工学専攻〈修士課程〉(仮称)

生命理工学専攻(修士課程)では、「物質理学コース」「物理工学コース」の2コースを設けています。

「物質理学コース」では、生命科学から創薬・化学療法等について探求し、高い専門知識と技術・研究能力を修得できるカリキュラムとなっています。「物理工学コース」では、人間工学から健康科学・リハビリテーション等について探求し、高い専門知識と技術・研究能力を修得できるカリキュラムとなっています

〔将来の想定される進路〕

将来は、大学、専門学校等での教育・研究者、病院・医療福祉施設等での専門職リーダー、一般企業、公務員等で活躍できる人を育成します。

生命理工学専攻〈博士後期課程〉(仮称)

生命理工学専攻(博士後期課程)では、最先端の薬学から健康・医療科学について探求し、高度な理論と科学技術を創造的に展開できる能力を修得することができます。

〔将来の想定される進路〕

将来は、大学、専門学校等での教育・研究者をはじめとして、病院・医療福祉施設等での高度専門職リーダー、一般企業、公務員等で活躍できる人を育成します。

生命理工学研究科(仮称) 学生納付金(予定)

初年次納入金 ▶ 760,000 円	〔内訳〕	入学金	280,000 円
		授業料	350,000 円
		施設拡充費	130,000 円

※次年度以降は 480,000 円となります。

設置場所・アクセス

所在地 〒970-8551 福島県いわき市中央台飯野 5-5-1

最寄駅・主要道路から



常磐自動車道
いわき中央ICより

■自動車…約30分 [国道49号→平バイパス
→国道6号バイパス経由]

JR常磐線いわき駅より

■自動車…約20分

■路線バス(6番のりば)

- いわき駅・高専前・医療大・ラパーク行き
→医療創生大学下車
- いわき駅・高専前・飯野・ニュータウン行き
→中央台北中下車
- いわき駅・ハツ坂・飯野・ニュータウン行き
→中央台北中下車



医療創生大学

■薬学部 ■看護学部
■薬学科 ■看護学科

■健康医療科学部 ■心理学部
■作業療法学 ■臨床心理学科
■理学療法学 ※2020年4月開設

連絡先

TEL. 0246-29-5111(代)
FAX. 0246-29-5105
<http://www.isu.ac.jp/>



プレビュー

医療創生大学大学院「生命理工学研究科生命理工学専攻（修士課程）、生命理工学専攻（博士後期課程）（仮称）（設置構想中）」に関するアンケート	
受付期間	2019-11-01 00:00～2019-11-29 20:00
ポートフォリオ	追加しない

※アンケート集計シートに表示される問題番号を赤の太字で表示しています（例: **1.1**）。

医療創生大学では2020年4月より、大学院「理工学研究科」を「生命理工学研究科（仮称）」へ組織転換することを構想しています。

このアンケートは、大学卒業後の進路選択に関する考え方、本大学院への興味・関心、修学意欲等の意見を伺い、本学大学院の教育・研究活動をより充実させるための参考資料とさせていただきます。

本アンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。

つきましては、何卒アンケートへのご協力をお願いいたします。

※このアンケートやmanab@ISUに掲載されている資料に記載されている「生命理工学研究科生命理工学専攻（修士課程）、生命理工学専攻（博士後期課程）（仮称）」（設置構想中）に関する事項はすべて予定のものであり、内容が変更になる場合があります。

※回答は、当てはまる項目の口欄にチェック（☒）してください。

※質問により、1つだけ回答するものと、複数回答するものがあります。

最初にあなた自身について伺います。性別について教えてください。(選択必須)

1.1

1. ☐ 男性
2. ☐ 女性

学年について教えてください。(選択必須)

1.2

1. ☐ 薬学部1年生
2. ☐ 薬学部2年生
3. ☐ 薬学部3年生
4. ☐ 薬学部4年生
5. ☐ 薬学部5年生
6. ☐ 薬学部6年生
7. ☐ 健康医療科学部1年生
8. ☐ 大学院修士課程1年生
9. ☐ 大学院修士課程2年生

Q1: 大学卒業後の進路について伺います。あなたは、大学卒業後（現在、大学院修士課程に在籍している方は大学院修士課程修了後）の進路について、現時点でどのように考えていますか。(選択必須)

1.3

1. ☐ 大学院へ進学（現在、修士課程に在籍している方は博士課程への進学）
2. ☐ 就職
3. ☐ 専門学校へ進学
4. ☐ その他

(Q1で「大学院へ進学(現在、修士課程に在籍している方は大学院博士課程への進学)」と回答した方はQ2以降の質問にご回答ください。)

(Q1で「就職」「専門学校へ進学」「その他」と回答した方は、これで質問は終了です。ご協力ありがとうございました。)

※これ以降は、大学院のパンフレットを見てからご回答ください。



大学院チラシ.pdf - 2019-10-28 09:35:57

Q2: 医療創生大学大学院「生命理工学研究科生命理工学専攻(修士課程)(仮称)」には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまるものを1つだけチェックしてください)

①「物質理学コース」「物理工学コース」の2コースを設けている。(選択必須)

1.4

1. ☐ とても魅力を感じる
2. ☐ ある程度魅力を感じる
3. ☐ あまり魅力を感じない
4. ☐ まったく魅力を感じない

②「物質理学コース」では、生命科学から創薬・化学療法等について探求し、高い専門知識と技術・研究能力を修得できるカリキュラムとなっている。(選択必須)

1.5

1. ☐ とても魅力を感じる
2. ☐ ある程度魅力を感じる
3. ☐ あまり魅力を感じない
4. ☐ まったく魅力を感じない

③「物理工学コース」では、人間工学から健康科学・リハビリテーション等について探求し、高い専門知識と技術・研究能力を修得できるカリキュラムとなっている。(選択必須)

1.6

1. ☐ とても魅力を感じる
2. ☐ ある程度魅力を感じる
3. ☐ あまり魅力を感じない
4. ☐ まったく魅力を感じない

④将来は、大学、専門学校等での教育・研究者、病院・医療福祉施設等での専門職リーダー、一般企業、公務員等で活躍できる人を育成する。(選択必須)

1.7

1. ☐ とても魅力を感じる
2. ☐ ある程度魅力を感じる
3. ☐ あまり魅力を感じない
4. ☐ まったく魅力を感じない

Q3: あなたは、医療創生大学大学院「生命理工学研究科 生命理工学専攻(修士課程)(仮称)」を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近いもの1つをお選びください(あてはまるものを1つだけチェックしてください)。(選択必須)

1.8

1. ☐ 受験したいと思う

2. ☐ 受験したいと思わない

Q4: あなたは、医療創生大学大学院「生命理工学研究科 生命理工学専攻（修士課程）（仮称）」を受験して合格した場合、入学したいと思いますか。あなたの気持ちに近いもの1つをお選びください（あてはまるものを1つだけチェックしてください）。（選択必須）

1.9

1. ☐ 入学したいと思う
2. ☐ 入学したいと思わない

Q5: Q4で「入学したいと思う」と回答された方に伺います。そう思う理由をすべてお選びください（複数選択可）。

1.10

1. ☐ 生命理工学専攻（修士課程）（仮称）の教育・研究内容が良いと思ったから
2. ☐ 医療創生大学大学院の指導教員に魅力があるから
3. ☐ 医療創生大学大学院に良い先輩や卒業生がいるから
4. ☐ 大学院を修了した方が就職で有利だと思うから
5. ☐ 慣れた環境で学びたいから
6. ☐ その他

Q6: Q4で「入学したいと思わない」と回答された方に伺います。そう思う理由をすべてお選びください（複数回答可）。

1.11

1. ☐ 生命理工学専攻（修士課程）（仮称）の教育・研究内容が良いと思わなかったから
2. ☐ 医療創生大学大学院の指導教員に魅力があると思わなかったから
3. ☐ 医療創生大学大学院に良い先輩や卒業生がいないから
4. ☐ 大学院を修了した方が就職で不利だと思うから
5. ☐ 大学を卒業してすぐに就職したいから
6. ☐ 慣れた環境で学びたくないから
7. ☐ その他

Q7: 医療創生大学大学院「生命理工学研究科 生命理工学研究科（博士後期課程）（仮称）」には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。（それぞれ、あてはまるものを1つだけチェックしてください）

①最先端の薬学から健康・医療科学について探求し、高度な理論と科学技術を創造的に展開できる能力を修得することができる。（選択必須）

1.12

1. ☐ とても魅力を感じる
2. ☐ ある程度魅力を感じる
3. ☐ あまり魅力を感じない
4. ☐ まったく魅力を感じない

②将来は、大学、専門学校等での教育・研究者をはじめとして、病院・医療福祉施設等での高度専門職リーダー、一般企業、公務員等で活躍できる人を育成する。（選択必須）

1.13

1. ☐ とても魅力を感じる
2. ☐ ある程度魅力を感じる
3. ☐ あまり魅力を感じない
4. ☐ まったく魅力を感じない

Q8：あなたは、医療創生大学大学院「生命理工学研究科 生命理工学専攻（博士後期課程）（仮称）」を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近いもの**1つ**をお選びください（あてはまるものを**1つ**だけチェック）。（選択必須）

1.14

1. ☐ 受験したいと思う
2. ☐ 受験したいと思わない

Q9：あなたは医療創生大学大学院「生命理工学研究科 生命理工学専攻（博士後期課程）（仮称）」を受験して合格した場合、入学したいと思いますか。あなたの気持ちに近いもの**1つ**をお選びください（あてはまるものを**1つ**だけチェック）。（選択必須）

1.15

1. ☐ 入学したいと思う
2. ☐ 入学したいと思わない

Q10：Q9で「入学したいと思う」と回答された方に伺います。そう思う理由をすべてお選びください。（複数回答可）

1.16

1. ☐ 生命理工学専攻（博士後期課程）（仮称）の教育・研究内容が良いと思ったから
2. ☐ 医療創生大学大学院の指導教員に魅力があるから
3. ☐ 医療創生大学大学院に良い先輩や卒業生がいるから
4. ☐ 大学院を修了した方が就職で有利だと思うから
5. ☐ 慣れた環境で学びたいから
6. ☐ その他

Q11：Q9で「入学したいと思わない」と回答された方に伺います。そう思う理由をすべてお選びください。（複数回答可）

1.17

1. ☐ 生命理工学専攻（博士後期課程）（仮称）の教育・研究内容が良いと思わなかったから
2. ☐ 医療創生大学大学院の指導教員に魅力があると思わなかったから
3. ☐ 医療創生大学大学院に良い先輩や卒業生がいないから
4. ☐ 大学院を修了したほうが就職で不利だと思うから
5. ☐ 大学を卒業してすぐに就職したいから
6. ☐ 慣れた環境で学びたくないから
7. ☐ その他

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

前へ

次へ

閉じる

アンケート対象機関一覧

No	都道府県	企業・団体名称
1	宮城県	カメイ株式会社
2	福島県	株式会社幸楽苑ホールディングス
3	福島県	株式会社成栄
4	福島県	小名浜製錬株式会社小名浜製錬所
5	福島県	株式会社関電工福島本部
6	福島県	北関東空調工業株式会社
7	福島県	社会福祉法人希望の杜福祉会
8	福島県	株式会社協和マイクロ
9	福島県	株式会社くすりのマルト
10	福島県	株式会社クラシマ
11	福島県	クリナップ株式会社いわき事業所
12	福島県	有限会社ABCいわき
13	福島県	クレハ建設株式会社
14	福島県	永大小名浜株式会社
15	福島県	こころネット株式会社
16	福島県	社会福祉法人五彩会
17	福島県	株式会社坂本紙店
18	福島県	常磐開発株式会社
19	福島県	常磐共同ガス株式会社
20	福島県	城北化学工業株式会社
21	福島県	株式会社シンエイ
22	福島県	新常磐交通株式会社
23	福島県	東京電力ホールディングス株式会社
24	福島県	株式会社クレハ環境
25	福島県	アルファクラブ東北株式会社
26	福島県	磐城通運株式会社
27	福島県	株式会社うおしん
28	福島県	社団医療法人養生会かしま病院
29	福島県	株式会社江東微生物研究所
30	福島県	常磐興産株式会社
31	福島県	株式会社東日本計算センター
32	福島県	株式会社マルト
33	福島県	アイ・ケイ・ケイ株式会社いわき支店
34	福島県	株式会社アイフィールズ
35	福島県	アキラ建設
36	福島県	株式会社FSK
37	福島県	株式会社アド・プラン
38	福島県	三洋海運株式会社小名浜支店
39	福島県	アルプス電気株式会社小名浜工場
40	福島県	猪狩自動制御設計株式会社
41	福島県	いわきアルミ有限会社
42	福島県	医療法人医和生会
43	福島県	根本通商株式会社
44	福島県	特定非営利活動法人いわき環境システム
45	福島県	株式会社いわきスポーツクラブ
46	福島県	株式会社ネクスト情報はましん
47	福島県	株式会社いわき遠野らばん
48	福島県	社会福祉法人いわき福音協会
49	福島県	いわきワシントンホテル椿山荘
50	福島県	株式会社アップルケアネット

No	都道府県	企業・団体名称
51	福島県	株式会社福島マツダ
52	福島県	医療法人松尾会松尾病院
53	福島県	ひめゆり総業株式会社
54	福島県	株式会社福家産業
55	福島県	丸和製氷冷凍株式会社
56	福島県	大和電設工業株式会社
57	福島県	日本製紙株式会社勿来工場
58	福島県	日本梱包運輸倉庫株式会社
59	福島県	福島コンピュータシステム株式会社
60	福島県	株式会社日立製作所東北支社福島支店
61	福島県	リプロ内郷企業組合
62	福島県	株式会社ハニーズホールディングス
63	福島県	株式会社リオン・ドールコーポレーション
64	福島県	社会福祉法人誠心会
65	福島県	株式会社ラトブコーポレーション
66	福島県	丸浜運輸株式会社
67	福島県	古河電池株式会社いわき事業所
68	福島県	古藤工業株式会社
69	福島県	日本化成株式会社小名浜工場
70	福島県	北都オーディオ株式会社
71	福島県	福島さくら農業協同組合いわき地区本部
72	福島県	東洋システム株式会社
73	福島県	関彰商事株式会社エネルギー事業部東北支店
74	福島県	株式会社タイヘイドライバースクール
75	福島県	株式会社山一緑化土木
76	福島県	特定非営利活動法人TATAKIAGE Japan
77	福島県	田村建材株式会社
78	福島県	有限会社タロサ
79	福島県	株式会社ミドルウッド
80	福島県	東新工業株式会社いわき工場
81	福島県	福島建機株式会社
82	福島県	八幡印刷株式会社
83	福島県	公益財団法人ときわ会
84	福島県	常磐港運株式会社
85	東京都	渡辺パイプ株式会社
86	東京都	常磐共同火力株式会社
87	東京都	有機合成薬品工業株式会社
88	茨城県	中山商事株式会社

「生命理工学研究科 生命理工学専攻（修士課程）、生命理工学専攻（博士後期課程）（仮称）」
（設置構想中）に関するアンケート

つきましては、何卒アンケートへのご協力をお願いいたします。

Q5：貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員・職員の採用数（大学院修了者（修士課程）、（博士課程））について教えてください。

過去3か年の採用数（修士課程もしくは博士前期課程修了者） 平均（ ）名程度

過去3か年の採用数（博士課程もしくは博士後期課程修了者） 平均（ ）名程度

Q6：貴社・貴団体の本年度における新規大学院（修士課程もしくは博士前期課程）修了者の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか（あてはまるもの1つにチェック）。

- ☐ 1. 増やす
- ☐ 2. 昨年度並み
- ☐ 3. 減らす
- ☐ 4. 未定
- ☐ 5. 採用予定なし

Q7：貴社・貴団体の本年度における新規大学院（博士課程もしくは博士後期課程）修了者の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか（あてはまるもの1つにチェック）。

- ☐ 1. 増やす
- ☐ 2. 昨年度並み
- ☐ 3. 減らす
- ☐ 4. 未定
- ☐ 5. 採用予定なし

Q8：貴社・貴団体ではどのような分野（系統）の大学院（修士課程もしくは博士前期課程）を修了した人物を採用したいとお考えですか（あてはまるもの1つにチェック）。

- ☐ 1. 理学系統
- ☐ 2. 工学系統
- ☐ 3. 心理学系統
- ☐ 4. 文学系統
- ☐ 5. 語学系統
- ☐ 6. 法学系統
- ☐ 7. 経済・経営・商学系統
- ☐ 8. 社会学系統
- ☐ 9. 国際関係学系統
- ☐ 10. 看護・保健学系統
- ☐ 11. 医・歯学系統
- ☐ 12. 薬学系統
- ☐ 13. 農・水産学系統
- ☐ 14. 教員養成・教育学系統
- ☐ 15. 生活科学系統
- ☐ 16. 芸術学系統
- ☐ 17. 総合科学系統
- ☐ 18. その他
- ☐ 19. 学問系統にはこだわらない

Q9：貴社・貴団体ではどのような分野（系統）の大学院（博士課程もしくは博士後期課程）を修了した人物を採用したいとお考えですか（あてはまるもの1つにチェック）。

- ☐ 1. 理学系統
- ☐ 2. 工学系統
- ☐ 3. 心理学系統
- ☐ 4. 文学系統
- ☐ 5. 語学系統
- ☐ 6. 法学系統
- ☐ 7. 経済・経営・商学系統
- ☐ 8. 社会学系統
- ☐ 9. 国際関係学系統
- ☐ 10. 看護・保健学系統
- ☐ 11. 医・歯学系統
- ☐ 12. 薬学系統
- ☐ 13. 農・水産学系統
- ☐ 14. 教員養成・教育学系統
- ☐ 15. 生活科学系統
- ☐ 16. 芸術学系統
- ☐ 17. 総合科学系統
- ☐ 18. その他
- ☐ 19. 学問系統にはこだわらない

※これ以降は、同封された資料を見てからお答えください。

Q10：医療創生大学大学院「生命理工学研究科 生命理工学専攻(修士課程)（仮称）」には、以下のような特色があります。貴社・貴団体（ご回答者）にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力を感じますか（それぞれ、あてはまるものを1つだけ）。

		とても 魅力を感じ る	ある程度 魅力を感じ る	あまり 魅力を感じ ない	まったく 魅力を感じ ない
(例) ○○を修得できる。	→	☐	☒	☐	☐
① 「物質理学コース」「物理工学コース」の2コースを設けている。	→	☐	☐	☐	☐
② 「物質理学コース」では、生命科学から創薬・化学療法等について探求し、高い専門知識と技術・研究能力を修得できるカリキュラムとなっている。	→	☐	☐	☐	☐
③ 「物理工学コース」では、人間工学から健康科学・リハビリテーション等について探求し、高い専門知識と技術・研究能力を修得できるカリキュラムとなっている。	→	☐	☐	☐	☐
④ 将来は、大学、専門学校等での教育・研究者、病院・医療福祉施設等での専門職リーダー、一般企業、公務員等で活躍できる人を育成する。	→	☐	☐	☐	☐

Q11：貴社・貴団体（ご回答者）は、医療創生大学大学院「生命理工学研究科生命理工学専攻(修士課程)」を修了した学生について、採用したいと思われますか（あてはまるもの1つにチェック）。

- ☐ 1. 採用したいと思う
☐ 2. 採用したいとは思わない

Q12：Q11で「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。現時点でのご回答者ご自身のお考えに最も近いものをお教えてください（あてはまるもの1つにチェック）。

※なお、この回答は実際の採用人数をお約束いただくものではありません。

- ☐ 1. 1名
☐ 2. 2名
☐ 3. 3名
☐ 4. 4名
☐ 5. 5名～9名
☐ 6. 10名以上
☐ 7. 人数は未定

Q13：医療創生大学大学院「生命理工学研究科 生命理工学専攻（博士後期課程）（仮称）」には、以下のような特色があります。貴社・貴団体（ご回答者）にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力を感じますか（それぞれ、あてはまるもの1つにチェック）。

		とても 魅力を感じ る	ある程度 魅力を感じ る	あまり 魅力を感じ ない	まったく 魅力を感じ ない
（例）〇〇を修得できる。	→	☐	☐	☐	☐
① 最先端の薬学から健康・医療科学について探求し、高度な理論と科学技術を創造的に展開できる能力を修得することができる。	→	☐	☐	☐	☐
② 将来は、大学、専門学校等での教育・研究者をはじめとして、病院・医療福祉施設等での高度専門職リーダー、一般企業、公務員等で活躍できる人を育成する。	→	☐	☐	☐	☐

Q14：貴社・貴団体（ご回答者）は、医療創生大学大学院「生命理工学研究科生命理工学専攻（博士後期課程）」を修了した学生について、採用したいと思われますか（あてはまるもの1つにチェック）。

- ☐ 1. 採用したいと思う
☐ 2. 採用したいとは思わない

Q15：Q14で「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。現時点でのご回答者ご自身のお考えに最も近いものをお教えてください（あてはまるもの1つにチェック）。

※なお、この回答は実際の採用人数をお約束いただくものではありません。

- ☐ 1. 1名
☐ 2. 2名
☐ 3. 3名
☐ 4. 4名
☐ 5. 5名～9名
☐ 6. 10名以上
☐ 7. 人数は未定

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。